

図書館だより



no.230

2021(令和3)年5月13日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fcs.ed.jp/>

5月展示情報

◎企画展示

「国際アンデルセン賞受賞

～5人の日本人作家～」

場所：企画展示コーナー

◎ロビー展示「本はともだち」

場所：ロビー展示コーナー



◎時事展示

「ビジネス応援！みなさんの仕事を応援します」

場所：時事展示コーナー

◎ミニ展示

・「おうちでふれあうAI&プログラミング」

場所：調査相談カウンター脇 雑誌展示コーナー

・「緑の絵本」

場所：こどものへや・絵本コーナー

・「動物の絵本（どうぶつのえほん）」

場所：子育て支援コーナー

新型コロナウイルスに関する取組み

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、次のような対策の上で開館しております。

【感染拡大防止対策】

- 各カウンターに飛沫防止パネルを設置
- 入口にサーモグラフィカメラを設置
- 職員のマスク着用
- 換気(常時)及び定期的なカウンター等の消毒
- 返却された資料の消毒(消毒できない資料は24時間取り置きしてから貸出します)

【利用者の皆様へお願い】

- マスクの着用をお願いします。
- 入館の際は、「アルコール消毒液」で手指消毒を行ってください。
- サーモグラフィカメラを設置しています。測定の結果、設定の体温(37.5℃)を超えている場合には、入館をご遠慮いただく場合がございます。
- 風邪のような症状がみられる場合は、ご利用をご遠慮ください。

「ジャパナレッジLib」が 使えるようになりました！

福島県立図書館では、4月から「ジャパナレッジLib」がご利用いただけるようになりました。

●「ジャパナレッジLib」とは？

百科事典や国語辞典、英語その他の言語、歴史事典、東洋文庫等、65種類以上のコンテンツの検索ができるオンラインデータベースです。

◇ご利用の際は館内職員にお声がけください。

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『全国厄除け郷土玩具 疫病退散!入手先・由来・ご利益のすべてがわかる』中村 浩訳/著 誠文堂新光社 2020.11 759.9/㌔20Y

ワクチンもない江戸時代、コレラなど感染症退散を願って、各地で郷土玩具が作られました。コロナ禍の現代でも、丑年ということもあり、天然痘除けに効いたという赤べこが、品薄になるほど人気だったとか。

本書では、疫病退散、厄除消除などのご利益別に、日本各地の縁起物186点を由来などとともに紹介しています。巻末には、入手情報や索引もあります。

今も昔も平穏を願う気持ちは変わりません。素朴でかわいらしい郷土玩具に癒されてみませんか。

『標本バカ』川田 伸一郎/著, 浅野 文彦/イラスト ブックマン社 2020.10 480.73/㌔20X

「動物の死体を集めています。」いきなりそんなことを言われたら、普通はぎょっとしますよね。しかし世の中にはそれを仕事としている人もいます。本書では国立科学博物館で動物の研究をしている著者が、動物の死体を集め、標本にしていく日々の様子がコミカルに描かれています。

博物館での動物研究には、対象である動物の標本が必要不可欠です。私たちが博物館で目にする動物の剥製もその一部です。その標本はどのように作られているのか、奥深い世界の一端を垣間見ることができます。

『江戸のスポーツ歴史事典』谷釜 尋徳/著 柏書房 2020.11 384.8/㌔20Y

「蹴鞠」と聞いてどんな様子が思い浮かびますか？

平安貴族の雅な遊び、というイメージが強いかと思いますが、実は時代を下って近世になると庶民も楽しめるボールゲームへと変化したそうで、北斎漫画でも、普段着と思しきカジュアルな着物に草履姿の江戸庶民が蹴鞠を楽しむ様子が描かれています。そんな近世の江戸で花開いたスポーツ文化について書かれたのが本書です。

外でスポーツを楽しむにも何かと気を使う昨今ですが、ぜひ本書を手にとって、江戸の人々が楽しんだスポーツの世界を覗いてみてはいかがでしょうか。

児童・児童図書研究

『絵本で世界を学ぼう!』吉井潤/著 柏原 寛一/著 青弓社 2020.7 J019.53/㌔

もうすぐオリンピックですが、世界からたくさんの国が参加します。本書では、国連加盟国105か国の中から、1か国に一冊ずつ、国の基本データを添えて絵本を紹介しています。よく知っている絵本でも、どこの国の話なのか意外と気にせず読んでいることもあるかと思います。様々な国や地域の異なる文化や習慣を知り、理解するきっかけとして、絵本を手にとっ

雑誌・新聞

未だに収束の目途がたたない新型コロナウイルス感染症ですが、最近では「ウィズコロナ」や「アフターコロナ」という言葉も多く目にするようになりました。関連特集が掲載されている雑誌をご紹介します。また、最新号以外は借りることができます。ぜひ、ご利用ください。

『News week』第36巻第17号, 通巻1740号, 2021.4.27号, Z/051/N11
特集: 歴史に学ぶ感染症の終わり方

『週刊東洋経済』第6983号, 2021.4.24号, Z/330.5/T4
特集: 不動産投資天国と地獄

『月刊金融ジャーナル』第62巻第4号, 通巻783号, 2021年4月号, Z/338/K3
特集: 緊急事態 転換期の中小企業金融

『教育』No.904, 2021年5月号, Z/370.5/K20
特集: コロナと教育と民主主義

『みんてつ』No.75, 2021年春号, Z/686/M1
特集: ウィズコロナの沿線観光復興と鉄道利用促進

地域

『学生聞き書き記録福島第一原発事故は今 福島を訪ね、住民の声に耳を傾けて 2013~2020』明星大学人文学部人間社会学科社会調査実習(竹峰クラス)/編 明星大学人文学部人間社会学科竹峰誠一郎研究室 2021.2 LS543.4/M40/1

明星大学を中心とした大学生たちが、2013年から福島を訪ね、福島の住民一人ひとりの声にじっくりと耳を傾ける「聞き書き」を行なった8年間の記録です。調査当時のまま、そのとき住民が感じていた原発事故についての思いが、学生の感想とともにまとめられています。震災から10年経った今、復興とは何かを考えさせられる一冊です。

『明治三年欧州視察団周遊記 新潟から会津・米沢への旅』青柳 正俊/著 歴史春秋出版 2020.12 L291.6/A74/1

戊辰戦争が終わってすぐの明治3年、新潟を出立する西洋人の一行がいました。英国領事と商人たちは、新潟から会津、米沢にかけて鉾山や養蚕を視察しながら、戦の傷跡を残す若松城にも訪れます。廃藩置県が進む混乱期に、外国人の彼らはなぜ旅立つことができ、旅の目的は何だったのか。英国領事の報告書と商人の紀行文をもとに一行の旅路を辿り、隠された背景を紐解きます。